

日本ソフトウェア科学会

第28回（2011年度）通常総会議案書

日時： 2011年6月9日（木）18:00～20:00

場所： 山上会館 001会議室

議題： 第1号議案 2010年度事業報告
第2号議案 2010年度決算報告
第3号議案 2011年度事業計画
第4号議案 2011年度予算審議
第5号議案 一般社団法人への移行についての基本方針
第6号議案 一般社団法人定款案
第7号議案 一般社団法人への移行に伴う事業譲渡
第8号議案 一般社団法人への移行に伴う当会の解散
その他
表彰 基礎研究賞の授賞
論文賞の授賞
ソフトウェア論文賞の授賞
高橋奨励賞の授賞

【第 1 号議案】2010 年度事業報告

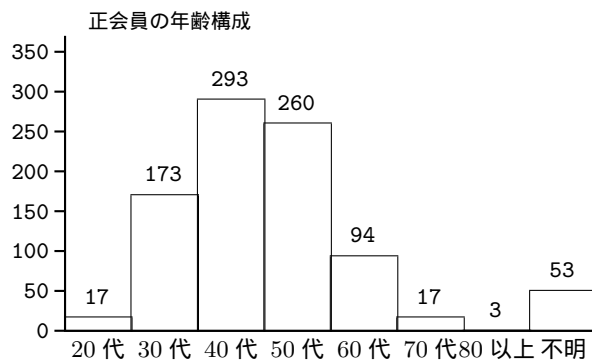
1. 会員

2011 年 3 月 31 日現在の会員状況は次の通りである。

正会員	908名	団体会員	7団体
学生会員	156名	賛助会員	8社（16 口）
準会員	31名		

2010 年 3 月 31 日時点での正会員数は 936 名であり、そこから 28 名減少したことになる。

正会員の年齢構成をつぎのグラフに示す。50 才を越える正会員が 40%程度、40-49 才の正会員が 30%程度、30-39 才の正会員は 20%程度である。なお、20 代の正会員が少ないが、学生会員の多くは 20 代であろう。



2. 会議の開催

2.1 総会（第 27 回）

日 時： 2010 年 6 月 9 日（水）18:00～20:00

場 所： 東京大学山上会館 001 会議室

出席者： 331 名（うち委任状 307 名、定足数 156 名）

議 案： （1） 2009 年度事業報告 （2） 2009 年度決算報告
（3） 2010 年度事業計画 （4） 2010 年度予算

柴山悦哉理事長を議長に、第 1 号議案、第 2 号議案を審議し、決算が適正であるとの杉村領一 2009 年度監事の報告を受けて、満場一致でこれらを承認した。続いて第 3 号議案、第 4 号議案について審議し、これらも満場一致で承認した。引き続き、基礎研究賞（第 2 回）、論文賞（第 14 回）、ソフトウェア論文賞（第 2 回）、および高橋奨励賞（第 26 回）受賞者の表彰に移り、総会に出席の各氏に賞状と副賞が手渡された。さらに、2009 年度に設けられた名誉会員の表彰（第 1 回）に移り、総会に出席の各氏に名誉会員記が手渡された。最後に、2009 年度で退任した理事に理事長から礼状が手渡された。総会終了後、簡単な懇親会をもった。

2.2 理事会

第 245 回（2010-04-15）から第 250 回（2011-01-13）まで 6 回開催した。2010 年度の理事及び監事は次の通りである。

理事長 柴山 悦哉

理 事 大和田勇人 亀山 幸義 河内谷清久仁 河野 健二

権藤 克彦	紀 信邦	佐藤 周行	高橋 和子
橋田 浩一	平田 圭二	廣津登志夫	胡 振江
松本 健一	村田 真		

監 事 杉村 領一 中谷 多哉子

2.3 評議員会

第 25 回 (2010-09-14) 評議員会を津田塾大学小平キャンパスにて開催し、学会運営について討議した。2010 年度の評議員は次の通りである。

阿草 清滋	雨宮 真人	井田 哲雄	伊藤 貴康	稲垣 康善
井上 克郎	牛島 和夫	江口 和俊	大野 豊	大野 義夫
大堀 淳	大蒔 和仁	落水浩一郎	箕 捷彦	片山 卓也
佐々 政孝	佐藤 雅彦	武市 正人	田中 英彦	田中 譲
玉井 哲雄	近山 隆	土居 範久	東倉 洋一	都倉 信樹
所 真理雄	中島 震	中島 秀之	中田 育男	西田 豊明
疋田 輝雄	深沢 良彰	二木 厚吉	二村 良彦	古川 康一
溝口 文雄	村岡 洋一	森下 真一	山本 喜一	湯浅 太一
米崎 直樹	米澤 明憲			

3. 事業

3.1 機関誌編集

第 306 回 (2010-05-14) から第 311 回 (2011-02-04) まで、6 回の編集委員会を開催し、機関誌「コンピュータソフトウェア」第 27 巻 2～4 号および第 28 巻 1 号を発行した。これらは全て、サイバー増大号であり、冊子体とサイバーページ (電子出版) から構成した。また、「ソフトウェア工学」(第 27 巻 3 号)、「ソフトウェア論文」(第 27 巻 4 号)、「ネットワークが創発する知能」(第 28 巻 1 号) の 3 回の特集を組んだ。

平成 23 年 1 月 13 日に投稿規定を改訂して、いわゆる別刷りを廃止した。これは経費の削減が主な目的である。この改訂は平成 23 年 6 月 1 日から施行されるため、第 28 巻 3 号 (2011 年 8 月) から実施される。

解説論文や解説記事の充実を図った。その結果、第 27 巻 2 号から第 28 巻 1 号までの合計で、解説論文 5 編、ソフトウェア紹介 3 編、フォーラム 1 編が掲載された。

平成 21 年 6 月 4 日に導入されたレター論文には多くの投稿があった。第 27 巻 2 号から第 28 巻 1 号までの合計で、17 編のレター論文が掲載された。

2005 年度から開始した読者モニタ制度をアナウンスし、応募者の中から選定された 5 名のモニタから機関誌および各記事に関するさまざまなフィードバックを得た。

第 15 回論文賞として、以下の 2 件を選定した。

- ・五十嵐 悠紀, 五十嵐 健夫, 鈴木 宏正:「あみぐるみのための 3 次元モデリングと製作支援インタフェース」, Vol. 26, No. 1 (2009), pp. 51-58.
- ・上嶋 祐紀, 住井 英二郎:「Java 言語への変換によるポイント演算の安全な実装方式」, Vol. 26, No. 1 (2009), pp. 139-154.

また、第 3 回解説論文賞として、以下の 1 件 (2 編で 1 件) を選定した。

- ・佐々政孝, 滝本宗宏:「静的単一代入形式を用いた最適化 (導入編)」, Vol. 25, No. 1 (2008), pp. 19-29.

- ・ 滝本宗宏, 佐々政孝:「静的単一代入形式を用いた最適化 (発展編)」, Vol. 25, No. 1 (2008), pp. 30-46.

2010 年度の編集委員会の構成は次の通りである .

編集委員長	本位田真一				
編集副委員長	鯨坂 恒夫	権藤 克彦			
編集顧問	上田 和紀	竹内 郁雄			
編集担当理事	胡 振江	権藤 克彦			
編集委員	青木 利晃	明石 修	和泉 順子	伊知地 宏	
	岩崎 英哉	亀山 幸義	栗原 聡	河野 健二	
	沢田 篤史	首藤 一幸	住井英二郎	関 浩之	
	滝本 宗宏	豊田 正史	並木美太郎	西崎 真也	
	番原 睦則	細部 博史	増原 英彦	松原 繁夫	
	真野 健	丸山 勝久	山本 章博	結縁 祥治	
	吉岡 信和				

3.2 企画委員会

第 1 回 (2010-06-08) から第 5 回 (2011-01-31) までの企画委員会を開催し, 各種の企画にあたった . 2010 年度の企画委員は次の通りである .

企画委員長	橋田 浩一				
企画担当理事	橋田 浩一	松本 健一	廣津 登志夫		
企画委員	青柳 滋己	網代 育大	緒方 淳	栗原 聡	
	來間 啓伸	杉木 章義	廣海 緑里	前田 俊行	
	南出 靖彦	横山 大作	吉岡 信和	吉川 隆英	
	米澤 拓郎				

関西支部

委員長 松本 健一

委 員 井垣 宏 内田 眞司 大平 雅雄 柿元 健 玉田 春昭

3.3 大会

2010 年 9 月 11 日 ~ 15 日に, 津田塾大学 小平キャンパスにおいて第 27 回大会を開催した .

本大会では, 「今年の大会は変わります!」をスローガンに掲げた . 近年, 専門領域が細分化するにつれ, 各研究会主催のワークショップが盛況である一方, 分野横断の場である大会は, 十分に存在感を発揮してこなかった . そこで, 従来のプログラム構成を一新すべく, 種々の企画および工夫を行った . 主な内容は, 以下の通りである: 優れた論文を大会発表の形で紹介する「特別講演」, 各研究会が主体となって企画した「研究会セッション」, ソフトウェア論文発表を促進する「ソフトウェア論文セッション」, 学生の研究発表を奨励する「学生セッション」および「学生奨励賞」, 学会誌への大会同時投稿制度の改善 . これらの企画にあたり, 編集・企画委員会, 各研究会が知恵と労力を提供し, まさに学会を挙げて企画に関与した大会となった .

大会本体 (9 月 13 日 ~ 15 日) の参加者は, 過去 5 年間で最多の 215 名 (招待講演者 1 名, 正会員 117 名, 学生会員 51 名, 一般非会員 9 名, 学生非会員 37 名) であった . 発表件数は, 招待講演 1 件 (竹内郁雄氏), 特別講演 4 件, 登壇発表 84 件, デモ・ポス

ター発表 8 件であった。また、9 月 11 日～12 日に大会併設イベントとして、ダイジェスト版チュートリアル「サービス・音声・ゲーム」、チュートリアル「R によるソーシャルネットワーク分析入門」、PPL サマースクール 2010「マルチコア時代の新言語」の 3 件を開催した。

講演論文集は CD-ROM (ISSN 1348-0901) で刊行した。大会の詳細な内容は、学会誌記事「日本ソフトウェア科学会第 27 回大会報告」(細部博史著, Vol.28, No.1, pp. 49-56, 2011) で報告されている。

大会における優れた登壇発表に対して与えられる高橋奨励賞は、次の 3 件である。

- ・ 上野 雄大 (東北大学): 「多相レコード計算に基づく軽量の第一級オーバーロードの設計と実装」
- ・ 佐藤 健 (国立情報学研究所 / 総合研究大学院大学): 「情報学と法学を融合する新しい学問領域 juris-informatics の提案」
- ・ 堀内 公平 (電気通信大学): 「MyCloud: 複数ベンダーのクラウドを用いて構成する高速で高信頼な分散ストレージ」

第 27 回大会の役員は次の通りである。

大会委員長	小川 貴英			
運営委員長	新田 善久			
プログラム委員長	細部 博史			
プログラム委員	五十嵐 淳	伊知地 宏	岩崎 英哉	江本 健斗
	大山 恵弘	亀山 幸義	栗原 聡	河野 健二
	権藤 克彦	志築文太郎	住井英二郎	千葉 滋
	寺岡 文男	並木美太郎	西崎 真也	番原 睦則
	胡 振江	南出 靖彦		
大会担当理事	亀山 幸義	胡 振江		

3.4 講習会

下記のチュートリアルを開講した。

- (1) 「R によるソーシャルネットワーク分析入門」, 2010-09-11
- (2) 「ダイジェスト版チュートリアル: サービス・音声・ゲーム」, 2010-09-11
- (3) 「VDM++による形式仕様記述」, 2011-01-25

3.5 研究会

2010 年度は、次の 8 研究会が活動した。各研究会の主な活動は下記の通りである。

- (1) 「ソフトウェアシステム」研究会 (主査: 廣津 登志夫)
今後の活動の方向を検討
- (2) 「プログラミング論」研究会 (主査: 五十嵐 淳)
国際シンポジウム 1 回開催 (2010-04-19～21)
サマースクール (大会併設) 1 回開催 (2010-09-12)
ワークショップ 1 回開催 (2011-03-09～11)
コンピュータソフトウェア: PPL2010 論文推薦
- (3) 「マルチエージェントと協調計算」研究会 (主査: 大沢 英一)
合同ワークショップ&シンポジウム 1 回開催 (2010-10-27～29)

- (4) 「インタラクティブシステムとソフトウェア」研究会 (主査: 後藤 真孝)
 ワークショップ 1 回開催 (2010-12-01 ~ 03)
 情報処理学会インタラクシオン 2011 協賛
- (5) 「ソフトウェア工学の基礎」研究会 (主査: 権藤 克彦)
 ワークショップ 1 回開催 (2010-11-18 ~ 20)
- (6) 「インターネットテクノロジー」研究会 (主査: 寺岡 文男)
 ワークショップ 1 回開催 (2010-06-24 ~ 25)
 大会研究会セッション 1 回開催 (2010-09-13)
 コンファレンス 1 回開催 (2010-10-25 ~ 26)
 コンピュータソフトウェア特集号 (2011-05 刊行)
- (7) 「ディペンダブルシステム」研究会 (主査: 河野 健二)
 ワークショップ 1 回開催 (2010-07-20 ~ 22)
 大会研究会セッション 1 回開催 (2010-09-13)
- (8) 「ネットワークが創発する知能」研究会 (主査: 中島 秀之)
 国際ワークショップ 1 回開催 (2010-05-10)
 ワークショップ 1 回開催 (2010-08-20 ~ 22)
 秋合宿 1 回開催 (2010-12-06 ~ 08)

3.6 共催・協賛

会議等の共催・協賛・後援の承認件数は以下の通りであった。

共催： 0 件 協賛： 9 件 後援： 2 件

3.7 広報関係

- (1) 本学会 Web ページを (株) ディバータが提供する「RCMS」に移行した。
- (2) 本学会の Web ページ (<http://www.jsst.or.jp/>) および会員メーリングリスト (jsst.members@jsst.or.jp) を通じて、会員への情報提供を行った。

3.8 基礎研究賞

ソフトウェア科学分野の基礎研究において顕著な業績を挙げた研究者に対して、基礎研究賞を授与しその功績を称える制度を 2008 年度に設けた。3 年目にあたる 2010 年度は、以下の 2 名を選定した。

- ・大堀 淳 氏 (東北大学電気通信研究所) 授賞業績：型システムを用いたプログラミング言語実現に関する研究
- ・小林 直樹 氏 (東北大学情報科学研究科) 授賞業績：高階関数型プログラムの検証に関する研究

2010 年度の基礎研究賞選定委員会の構成は次の通りであった。

柴山 悦哉 (理事長)

本位田真一 (編集委員長)

大沢 英一 加藤 和彦 砂原 秀樹 萩谷 昌己 安村 通晃

3.9 法人化

法人化のプロセスを進行するために、外注業者を選定して作業を委託し、法人化の基本方針を策定し、非営利型の一般社団法人として設立するための機関設計と定款の要件を確定する作業を行い、定款案及び諸規程案を作成した。基本方針と定款案については、理事会、評議員会で十分な議論を重ねたほか、学会ホームページ上で会員からの意

見を募集した。また、研究会とは法人化後の研究会の扱いについて、意見を交換した。

4. 選挙

2010 年度末で任期満了となる役員分（理事 7 名、監事 1 名）に対する選挙は、2010 年 12 月 15 日に公示され、2011 年 1 月 21 日まで候補の推薦を受け付けた。その結果、理事候補として 7 名、監事候補として 1 名の推薦があった。推薦を受けた全員が役員候補者選考委員会にて候補者として選考され、2011 年 3 月 22 日までの期間の正会員による投票に付された。同時に役員選挙候補者選考委員の正会員による審査も行われた。正会員名 930 人中 259 票（約 28%）の投票があり、結果は次の通りであった。

理事選挙（有効投票数 259）

明石 修（237） 紀 信邦（240） 柴山 悦哉（254） 滝本 宗宏（241）
立石 孝彰（239） 丸山 勝久（239） 吉岡信和（237）

監事選挙（有効投票数 259）

丸山 宏（249）

役員候補者選考委員 不信任票（有効投票数 259）

井田 哲雄（2） 井上 克郎（0） 佐藤 雅彦（0） 近山 隆（0） 中島 秀之（2）

この結果、理事候補、監事候補全員がそれぞれ理事、監事として選出され、2011 年 4 月 1 日から 2013 年 3 月 31 日までの役員を務めることになった。また、役員候補者選考委員全員が信任を受けた。

今回は、投票用ハガキにおいて理事候補者名に誤記があった。「滝本 宗弘」は誤りで、正しくは「滝本 宗宏」である。「滝本 宗弘」に印をつけた投票ハガキは「滝本 宗宏」候補への投票として取り扱った。ご迷惑をおかけしたことを深くおわびいたします。

なお、この選挙における選挙管理委員会の構成は次の通りであった。

選挙管理委員会

村田 真（委員長）

亀山 幸義 河野 健二 榎藤 克彦 高橋 和子

橋田 浩一 廣津 登志夫 胡 振江

【第2号議案】2010年度決算報告

当期収入合計 23,185,737 円に対し、当期支出合計 23,137,913 円であり、収支差額 47,824 円である。2010 年度は学会活動の活性化と経費削減にむけて各事業にいっそうの努力を求めた予算であったが、全般的には努力の成果が見られる結果となった。各事業の状況は以下の通りである。

まず、会員関係であるが、退会者、除名者が出た一方新規入会者も多く、さらに滞納金の支払いが約 76 万円あったため、結果的には入会金、会費に関しては見込み以上の収入があった。支出においては 2008 年度末に行った連絡不通会員、会費長期滞納会員的大幅な整理によって会員数が実際のものに近い値になったことおよび 2010 年度に業務委託業者を変更したことによって業務費が削減され、結果として会員関係業務費では前年度よりも約 50 万円が削減された。機関誌関係では、採択論文のページ数が多く、ボリュームのあるサイバーページを含む機関誌が発行されたことから、収支とも予算を上回った。大会事業はさまざまな新企画を盛り込んだ成果として、想定よりも規模が大きなものを開催することができ、収入が支出を大幅に上回った。講習会事業についてはかなりの集客数を見込んだ予算だったが、集客がふるわず収支とも予算を大幅に下回ることになった。また、理事会、編集委員会における弁当代を年度途中で廃止したことが管理費、機関誌業務費の経費削減につながった。法人化準備として積立金 200 万を取り崩したが、委託業者への費用支払いで次年度にずれ込む部分があったこともあり、支出は予算をかなり下回った。法人化準備費として使われなかった金額については 2011 年度に支出がずれ込む見込みである。

収支計算書 (2010 年 4 月 1 日から 2011 年 3 月 31 日まで)

・ 通常会計

(1) 収入の部			(2) 支出の部		
(単位：円)			(単位：円)		
勘定科目	予算額	決算額	勘定科目	予算額	決算額
入会金・会費収入	12,660,000	13,818,000	会員関係業務費	2,370,000	2,431,651
大会収入	1,200,000	1,475,000	研究活動費	150,000	150,000
機関誌収入	4,200,000	5,432,500	大会業務費	1,000,000	799,807
講習会収入	1,500,000	356,000	機関誌購入費	10,000,000	12,506,475
雑収入	100,000	49,555	機関誌業務費	250,000	58,249
当期収入小計	19,660,000	21,131,055	講習会業務費	750,000	398,836
			管理費	1,200,000	1,078,866
			事務所経費	1,400,000	1,396,084
前期繰越金	54,682	54,682	事務所整備費	50,000	81,795
			人件費	3,400,000	3,338,400
			予備費	100,000	0
法人化準備積立金	2,000,000	2,000,000	法人化準備費	2,000,000	897,750
当期収入合計	21,714,682	23,185,737	当期支出合計	22,670,000	23,137,913
			当期収支差額		47,824

・特別会計

(1) 収入の部 (単位：円)			(2) 支出の部 (単位：円)		
勘定科目	予算額	決算額	勘定科目	予算額	決算額
前期繰越金 (基礎研究賞基金)	2,307,920	2,307,920	基礎研究賞副賞	200,000	200,000
利子	0	2,451			
当期収入合計		2,310,371	当期支出合計	200,000	200,000
			当期収支差額		2,110,371

貸借対照表 (2011 年 3 月 31 日)

(1) 資産の部 (単位：円)			(2) 負債の部 (単位：円)		
大科目	中科目	金額	大科目	中科目	金額
流動資産	現金預金	25,581,765	流動負債	未払い金	770,780
	前払い費用	85,350		前受け金	4,501,000
	差入引当金	307,440	流動負債合計		5,271,780
			負債合計		5,271,780
流動資産合計		25,667,115			
固定資産合計		307,440	(3) 正味財産の部 (単位：円)		
資産合計		25,974,555	大科目	中科目	金額
			諸積立金	会員事務関連	600,000
				研究活動関連	4,944,580
				法人化準備	13,000,000
			特別会計	基礎研究賞基金	2,110,371
			剰余金	通常会計	47,824
			正味財産合計		20,702,775
			負債及び正味財産合計		25,974,555

繰越処理計算書 (2011 年 3 月 31 日)

(単位：円)	
(1) 当期収支差額	47,824
(2) 資産特定額	0
(3) 次期繰越収支差額	47,824

繰越処理後正味財産 (2011 年 3 月 31 日)

(単位：円)	
会員事務関連	600,000
研究活動関連	4,944,580
法人化準備	13,000,000
基礎研究賞基金	2,110,371
当期繰越収支差額	47,824
合計	20,702,775

2010 年度決算報告書が正しく処理されていることを証明します。

2011 年 5 月 12 日

監事 杉村 領一 (印)

監事 中谷 多哉子 (印)

【第3号議案】2011年度事業計画

1. 会員 (2011年度未予定)

2010年度には正会員は28名の減少であった。2011年度には会員を増やすための努力をするとともに、会員数が減少しても運営できる財務体質を目指す。

2. 会議

2.1 第28回通常総会 (2011-06-09)

2.2 理事会 (年6回以上開催)

3. 事業活動

3.1 機関誌発行

4冊の機関誌を編集刊行する。採録論文の一部は、機関誌のサイバー増大号の形で電子的に出版する。読者モニタ制度を続け、編集作業の参考とする。学会員が投稿しやすい機関誌を目指し、電子投稿システムの導入など、投稿システムの改善を図る。

また、解説論文や解説記事のさらなる充実化を図るため、「サーベイ論文」特集号 (2012年2月号掲載予定)、チュートリアルシリーズ「ソフトウェアサイエンスの基本」、ソフトウェア工学に関するチュートリアルシリーズ (まずは「ソフトウェア工学の実証的アプローチ」) などを企画している。

3.2 大会

第28回大会を以下の要領で開催する。

日 時： 2011年9月27日 (火)～29日 (木)、併設イベントは未定

会 場： 沖縄産業支援センター、沖縄県市町村自治会館

大会委員長： 遠藤 聡志 (琉球大学)

運営委員長： 河野 真治 (琉球大学)

プログラム委員長： 八杉 昌宏 (京都大学)

登壇発表申込締切： 6月24日 (金)

予稿原稿締切： 8月8日 (月)

3.3 講習会

最新のソフトウェア技術等に対する理解を会員に深めてもらうため、あるいはまた特定の基礎的技術を体系的に学び直せるような内容の「チュートリアル」を3～4件程度企画し開催する。また、「大学基礎講座」も2件程度企画し開催する。

3.4 研究会

次の8研究会が活動する。各研究会の活動予定は下記の通りである。

(1) 「ソフトウェアシステム」研究会 (主査： 廣津 登志夫)

活動方針に関する結論を出す

(2) 「プログラミング論」研究会 (主査： 五十嵐 淳)

サマースクール1回開催 (2011-09 大会併設)

ワークショップ1回開催 (2012-03)

コンピュータソフトウェア誌への論文推薦

(3) 「マルチエージェントと協調計算」研究会 (主査： 大沢 英一)

合同ワークショップ&シンポジウム (2011-10～11)

(4) 「インタラクティブシステムとソフトウェア」研究会 (主査： 後藤 真孝)

- ワークショップ 1 回開催 (2011-12 上旬)
情報処理学会インタラクション 2012 協賛
- (5) 「ソフトウェア工学の基礎」研究会 (主査：杉山 安洋)
ワークショップ 1 回開催 (2011-11-24～26)
大会研究会セッション 1 回開催 (2011-09)
コンピュータソフトウェア特集号
- (6) 「インターネットテクノロジー」研究会 (主査：明石 修)
ワークショップ 1 回開催 (2011-06-02～03)
大会研究会セッション 1 回開催 (2011-09)
コンファレンス 1 回開催 (2011-10-27～28)
コンピュータソフトウェア特集号 (2012-06 刊行予定)
- (7) 「ディペンダブルシステム」研究会 (主査：河野 健二)
ワークショップ&シンポジウム 1 回開催 (2011-12 ごろ)
大会研究会セッション 1 回開催 (2011-09)
- (8) 「ネットワークが創発する知能」研究会 (主査：中島 秀之)
ワークショップ 1 回開催 (2011-09-05～07)
秋合宿 1 回開催 (2011-12 上旬)

3.5 広報

本学会 Web ページを整備更新し、本学会会員メーリングリストを活用することにより、有益な情報を効果的かつ適時に会員に提供する。

3.6 法人化

本総会にて新法人に対する当学会の事業の譲渡が決議された場合、法人としての活動を 7 月を目処に開始する。新法人は本学会の予算を引き継ぐことになるので、法人予算は事業譲渡時の予算執行状況を見て別途作成する。また、法人化後の早い時期に研究会の会計統合と諸規程の確定作業を実施する。なお、法人機関の新しい構成に対し、選挙の方法が従来と変わる部分が発生するので、新たに手順を開発する。

3.7 賞の選考

論文賞，ソフトウェア論文賞，高橋奨励賞，基礎研究賞を選考する。

3.8 会員増加策と経費削減

会員を増やすための方策と経費（特に機関誌の費用）の適正化について検討する。そのための小委員会を設置する。

【第4号議案】2011年度予算

2011年度の単年度予算としては収入 22,877,824 円、支出 24,420,000 円を計上する。

まず、会員関係であるが、入会金・会費収入予算は、2011年3月末日時点での正会員 908 名、学生会員 156 名、準会員 31 名、団体会員 7 団体、賛助会員 8 社という実態を踏まえ、正会員、学生会員あわせて約 80 名の新規会員獲得を目標に納付率 90 % として算定した値に滞納金支払い見込みを組み入れたものである。会員関係業務費もこの数をもとに算出している。大会については、今年度は地方開催予定であることを勘案し、過去と同様の収支と見積もって算出した。研究活動費に関しては、論文賞 2 件および解説論文賞 1 件分の予算を計上している。機関誌に関しては、昨年度と同程度のボリュームのサイバーページを含むものをめざすと考えて算出している。また、論文投稿規程の見直しにより、8月号以降は別刷りを廃止することにしたことから、機関誌購入費は例年に比べて少なく見積もっている。機関誌業務費は今年度は特段の業務が発生しないということから 0 円としている。講習会については 4 回開催予定であり、集客数増加に努力することで、前年度よりは多い収入を見込んでいる。また、法人化準備積立金から 190 万円を取り崩しているが、これは昨年度の法人化準備費のうち支出が今年度にずれこんだ 110 万円を含むものである。

会員数の確保、機関誌の扱い、学会の運営方法の効率化などについて理事会を中心として具体的施策を出していくことが急務である。

通常会計

(1) 収入の部 (単位：円)		(2) 支出の部 (単位：円)	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
入会金・会費収入	13,330,000	会員関係業務費	2,400,000
大会収入	1,460,000	研究活動費	150,000
機関誌収入	5,440,000	大会業務費	1,420,000
講習会収入	600,000	機関誌購入費	12,300,000
雑収入	100,000	機関誌業務費	0
当期収入小計	20,930,000	講習会業務費	400,000
		管理費	900,000
前期繰越金	47,824	事務所経費	1,400,000
法人化準備積立金	1,900,000	事務所整備費	50,000
		人件費	3,400,000
		予備費	100,000
		法人化準備費	1,900,000
当期収入合計	22,877,824	当期支出合計	24,420,000

特別会計

(1) 収入の部 (単位：円)		(2) 支出の部 (単位：円)	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
前期繰越金(基礎研究賞基金)	2,310,371	基礎研究賞副賞(2件)	200,000
当期収入合計	2,310,371	当期支出合計	200,000

【第 5 号議案】 一般社団法人への移行についての基本方針承認の件

一般社団法人への移行について、以下の基本方針を承認する。

1. 一般社団法人日本ソフトウェア科学会（以下、新法人という。）の設立の件
「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」（以下、法人法という。）の規定に則り、また、税制上の非営利型法人の要件を満たす一般社団法人として設立する。
2. 設立時社員について
新法人の設立時社員を、理事長及び理事長の指名する者 1 名とする。
3. 設立時役員について
本年度理事監事全員を新法人設立時のそれぞれ理事監事とする。
4. 事業譲渡の実行について
本総会において第 7 号議案が可決された場合に、7 月を目途として当会から新法人への事業譲渡を実行する。
5. 当会の解散について
本総会において第 8 号議案が可決された場合に、事業譲渡実行後、残務整理完了とともに、当会を解散する。

【第 6 号議案】 一般社団法人定款承認の件

別添の一般社団法人日本ソフトウェア科学会定款を承認する。

【第 7 号議案】 一般社団法人への移行に伴う事業譲渡承認の件

当会を新法人に移行するため、全事業を新法人に譲渡する。

事業譲渡が実行されると同時に、当会の全ての資産、負債、及び、会員を新法人に移動する。なお、事業譲渡の実行日については、基本方針に従い理事会にて決定する。

【第 8 号議案】 一般社団法人への移行に伴う当会の解散の件

当会から新法人への事業譲渡が実行された後、残務整理完了後に当会を解散することにつき、定款第 49 条により決議する。

【2011 年度理事・監事】

2011 年度の理事および監事は次の通りである。（* 印は 2011 年度選出，無印は 2010 年度選出）

理事長 柴山 悦哉

理 事	明石 修*	亀山 幸義	河野 健二	紀 信邦*	権藤 克彦
	柴山 悦哉*	高橋 和子	滝本 宗宏*	立石 孝彰*	橋田 浩一
	廣津登志夫	胡 振江	村田 真	丸山 勝久*	吉岡 信和*

監 事 中谷多哉子 丸山 宏*